令和７年度第３回　瑞浪市夢づくり地域交付金等事業審査会
令和６年度通常事業事後評価　議事録

日　　時：令和７年９月２２日（月）　午後５時３０分から午後９時００分

場　　所：瑞浪市役所西分庁舎　１階会議室

出 席 委 員：大宮　康一（委員長）、辻本　紀み子（副委員長）、富田　宏、柴田　洋子、
谷本　陽子、有賀　秀雄（欠席）

※委員６名中５名の出席であり、委員の過半数の出席となり、瑞浪市夢づくり地域交付金等事業審査会規則第６条第２項の規定により、本会議は成立。

事　務　局：瑞　浪　市　長　水　野　光　二
みずなみ未来部長　正　木　英　二

事務局職員：市　民　協　働　課　長　奥　谷　ひとみ
まちづくり支援係長　中　筬　高　弘
まちづくり支援係　大　髙　まりあ

次　　第：１．市長あいさつ
２．委員長あいさつ
３．審査会の進行等についての説明
４．活動報告
５．閉会

【１　市長あいさつ】

皆さんこんばんは。本日は、令和７年度第３回瑞浪市夢づくり地域交付金等事業審査会にご出席いただきありがとうございます。本日の審査会では、令和６年度通常事業の審査を行います。令和６年度は瑞浪市制７０周年の記念の年であり、区長会やまちづくり推進協議会の方々が中心となり、地元でも記念イベントをやっていただいた、忙しい１年だったのではないかと思います。そのような周年のイベントにも協力していただきながら、各地区の計画にもしっかりと取り組まれました。特に令和６年度は、令和５年度に策定しました地域計画の初年度にあたる年であり、当初の審査会では地域計画をもとにした計画が発表されました。地域計画の実行、市制７０周年ともに素晴らしい１年だったのではないかと思います。本日は１年間の活動の発表がありますので、今年度、来年度につながるご指導、ご指摘をいただけますと、それぞれのまちづくりのレベルも上がってくると思います。よろしくお願いいたします。

本日の資料に草刈り女子の掲載がありますが、今年は第３回となる研修会があり、審査委員の中にも参加していただいている方がいらっしゃいます。当初の計画は審査会で見送りになった事業でしたが、皆さまからの指摘を受け、当時の会長をはじめとした土岐地区の皆さんが事業の見直しを行い、理解しやすい事業として再度申請していただき、審査会をクリアしていただきました。現在、草刈り女子は大盛況となっていますが、事業の評価の難しさとプレゼンの大切さを感じました。

本日は、令和６年度の報告を審査していただき、来年度に向かってさらにバージョンアップするきっかけになればと思います。忌憚のないご指摘をお願いいたします。

【２　委員長あいさつ】

皆さんこんばんは。本日は令和６年度の実績報告を審査していただきます。我々の指摘や意見交換によって事業が良い方向に進む機会にしたいと思います。これまでの審査会も非常に良い雰囲気で開催されていますので、あまり緊張することなくお互いに意見交換ができればと思います。本日はよろしくお願いいたします。

【３　審査会の進め方等についての説明】

≪審査会の進め方について事務局より説明≫

～質疑なし～

【４　活動報告】

≪①各地区からの事業説明≫

～省略～

≪②質疑・意見交換≫

日吉町まちづくり推進協議会（以下「日吉」）

〇委員

全体をとおして、目標や目的がはっきりと資料に示されている。例えば、情報発信ではホームページの年間アクセス数やフォロワー数など具体的な数値目標を持って活動されているのが素晴らしい。また、審査会資料について、写真が豊富に使用されており事業が理解しやすい。

〇委員　日吉町活性化事業

日本ガイシから企業版ふるさと納税があったが、まちづくりとして今後どのように関わっていくのか。

●日吉

日吉町活性化事業において、日本ガイシと合同で小学校５年生の里山体験を実施する予定がある。また、昨年度は日本ガイシとしいたけの植菌を行い、今年６月に本伏せを行った。約２年で収穫予定のため、そのタイミングでイベントができればと考えている。

〇委員　まちづくり情報発信事業

１１月に移住者交流会を実施された。今後空き家が多くの方に利用され、地域づくりにつながってほしい。移住を検討されている方にとって、空き家の利用にはどのような課題・ハードルがあるのか。市役所の関係部署と連携しながら課題が解決できると良い。

●日吉

現状、片付いた状態ではなく、天井が抜けていたり朽ちた状態になっていたりと改修が必要な場合がある。また、レッドゾーンにかかっているため、市の空き家バンクに登録することができない物件もあり、助成金が活用できず１つのハードルになっている。さらに、不動産は大事な財産であり、手放すことに難を示す方もいらっしゃる。しかし、考えているうちに空き家が朽ちてしまうため、そうなる前に上手くマッチングができればと考えている。一番の課題は空き家バンクにスムーズに登録ができないことである。

〇委員　日吉町活性化事業

発表から、町内を盛り上げようとする強い思いが伝わってきた。そういった思いがあるからこそ、天神窯春まつりも多くの方に来場していただいたと思う。事業の中に天神窯の環境整備や中山道周辺整備があるものの、経費の計上がないのはなぜか。

●日吉

天神窯の整備事業はふれあい部会の予算を使っている。中山道は商工観光課と請負契約をしており、その予算で問題なく実行できている。

〇委員　まちづくり情報発信事業

移住に向けて空き家を活用しながら新しい方を迎える準備をされている。現状、把握できる範囲で移住を希望する方の数と空き家の数のバランスはどのようか。

●日吉

空き家を求める方から時々連絡が入るが、現状、実際に動いている方は一人である。ただし、個人のインスタグラムで空き家の情報を発信した際、それに対する反応はかなりあるため、潜在的なニーズはあると考えて

いる。空き家についてはこの場で具体的な数の回答はできないが、収集した情報は整理し、委員に共有している。

＜市長コメント＞

特産品開発といい移住委員会の取り組みを発表していただいた。まずはふりかけについて、素晴らしい取り組みをしていただいたため、今後はアイデアが商品化され、きなぁた瑞浪などでお買い求めいただけるような特産品になると良い。地域内だけでは活動やアイデアに制限があるため、今後も中部大学との連携をとり、外部の方の力を借りていただきたい。必要があれば市が間に入るため、さらに事業を膨らませていただきたい。

いい移住委員会について、空き家は特に周辺部において大きな課題となっている。大湫や釜戸、陶でも空き家対策のチームが立ち上がっており、成果が出ているところもある。各組織と連携、情報交換をしながら皆で成果が上がると良い。空き家バンクについては、専門家が調査し、基準を満たした空き家を登録する制度となっている。登録しやすいよう見直しも必要だと思っているが、紹介する以上は一定の基準を設ける必要もある。今後も市と連携をとっていただけるとありがたい。今後、空き家が増えていく中で、所有者の方に分かりやすく説明し、協力していただくことが大切である。そういったことも考えながら、事業を拡大していただきたい。市としても協力していく。

土岐地区まちづくり推進協議会（以下「土岐」）

○委員　文化・歴史再発見事業・トレジャーウォーキング開催事業

JR 東海さわやかウォーキングで「郷土再発見」の冊子、トレジャーウォーキングで「ふるさとカルタ」を活用していただいた。作っただけで終わりでなく事業に活用されているのがありがたい。

○委員　文化・歴史再発見事業

JR 東海さわやかウォーキングの参加者は約９００名とのことだが、当初の企画よりも減少している。市外からの参加が多いようだが、地元の方や瑞浪市の方が参加できる工夫があると、土岐地区の史跡を知っていただく機会になるのではないか。

○委員　地域防災力強化事業

「学ぼうさい」で実施した１１９番の電話体験はどのようなものか。

●土岐

消防署から１１９番体験の機械を持ってきていただいた。家族が倒れた場合や、近所の家が火事になった場合など具体的な場面を想定し、１１９番にかけた際にどのようなことを聞かれるのか体験していただいた。アンケートの回答には小学校でもやってほしいという意見があった。

○委員　トレジャーウォーキング開催事業・草刈り機教室事業・青色回転灯防犯パトロール事業

トレジャーウォーキングはスマホを活用するなど若い方のアイデアが形になっている。また、草刈り女子は前向きな女性が活躍する姿が大変心強い。青パトも若い方が増えているなど、日々の活動で若い方が育っているのが素晴らしい。今後も楽しみにしている。

○委員　草刈り機教室事業

電動草刈り機貸出の主体はどこか。また、メンテナンスのコストはどのようか。貸出数の増加や経年劣化に伴い、今後は、貸出事業として必要な予算を確保するとともに、安全に配慮した運営を行う必要があるのではないか。

○土岐

まちづくり推進協議会が主体となり貸出を行っている。チップソーや消耗部品の交換など、高額ではないがメンテナンス費用は必要である。機械使用後の掃除は事務局で行っている。今後、バッテリーや本体の劣化等、バッテリーの追加や買い替えなどで追加の予算が必要になる可能性があると考えている。

○委員　地域計画実行事業

事業が実施できなかった理由は何か。

○土岐

土岐町にある桜堂薬師を中心に、人が集い、触れ合えるイベントを検討していたが、老朽化のため危険があることが判明し、白紙となった。

＜市長コメント＞

草刈り女子の活動は、審査委員の方の中にも参加者がいらっしゃり、他県からも視察にくるほど評価をいただいている。さらにこの事業を組織化し、草刈機の貸し出しや清掃活動への参加を行っていただきたい。ぜひ、参加者の方が今後も活躍できる機会を考えていただき、今後、さらに実のある事業にしていただきたい。トレジャーウォーキングについては、アイデアを盛り込み、子どもたちが楽しんで参加できる事業にしていただいている。土岐町の家庭にある「ふるさとカルタ」も活用していただいた。今年度、来年度もぜひ取り組んでいただきたい。桜堂薬師の危険個所については、地元の保存会の協議の中で解体を決断された。しかし、周辺には児童館や蓮池があり、きなぁた瑞浪も近く、薬師にお参りに来る方もいらっしゃる。今後、ぜひ周辺を活用した事業を考えていただきたい。

釜戸地区まちづくり推進協議会（以下「釜戸」）

○委員　地域環境美化事業

花苗活動について、来年度からは規模を縮小し、自主事業とするのはなぜか。

●釜戸

小学校区域外に花を植えるため、水やりなど花の世話が困難であることから、地域協働学校活動としての花苗活動は中止する。また、今年度から１７協力団体中２団体が高齢化により実施できなかった。今後は規模を縮小し、継続する。

○委員　青少年健全育成事業

ロッククライミングについて、生徒から提案があったように広報に力を入れていただきたい。今後、具体的にどのような取り組みをしていくのか。

●釜戸

より多くの方に体験していただけるよう、SNS を活用し、パンフレットの配布場所の拡大を検討している。

○委員　青少年健全育成事業

ロッククライミングの参加目標人数を１５名とした理由は何か。

●釜戸

予算の関係上、インストラクターは地元の方３名に依頼をし、安全上の理由からインストラクター１名につき５名の参加者を目標とした。実際は１７名から希望があったため、受け入れた。

○委員　かまど活性化・魅力発信事業

夏祭りの目的を、釜戸地域の活性化、釜戸町民の活力、意識の高揚を図るとしているが、年に１回の夏祭りの開催で目的を十分達成できると感じているか。例えば、コストをかけずに花火大会の写真を集めたフォトコンテストなど開催するなど、年間を通した活動の必要性は感じているか。

●釜戸

夏祭りは、特に子ども達の縁日を充実させており、釜戸町に住んでいた方の里帰りの機会にもなっている。花火は撮影が難しく、フォトコンテストなどの年間を通した活動は、現在の段階では検討していない。

○委員　青少年健全育成事業

和太鼓事業について、釜戸の文化として和太鼓が広まることを願った事業であるとの説明があるが、年１回の事業で十分だと感じているか。

●釜戸

報告した“志多ら”の演奏会と太鼓教室のほか、月に２回「太鼓を叩こう」という公民館の講座を実施しており、園児、小学生を対象に自由参加で十数名の方に参加していただいている。また、学校の授業として小学校３年生を対象に、８～１０回授業を行い、文化祭で発表の機会を設けている。以上の事業を実施しながら、文化を継承していきたい。

＜市長コメント＞

地域の夏祭りは、子どもを中心に大人も参加し、花火で締めくくられる大変盛り上がりのある行事である。釜戸町民だけでなく、町外に出られた方々の里帰りの機会にもなっており、地域で頑張る皆様の励みになるとともに、将来の U ターンにつながる契機にもなるものと考える。今後も創意工夫を重ね、継続していただきたい。

竜吟峡の整備について、釜戸町を挙げて取り組んでいただいていることに感謝する。昭和の時代には年間20 万人を超える観光客が訪れ、バンガローや店舗も立ち並ぶ観光地であった。かつてのにぎわいは薄れたが、まちづくり推進協議会を中心に整備を進めていただいていることは大変ありがたい。今後は、ふれあい館を中心に協議会とも連携し、竜吟峡をより一層活用していただきたい。ロッククライミングができる岩場についても、大きな可能性を感じる。大学生や社会人のチームが訓練に利用しており、その魅力を釜戸の子どもたちに体験してもらう事業は有意義である。チラシや SNS を活用し、町民一体となって竜吟峡の魅力を発信していただきたい。

太鼓については、公民館事業や学校の授業でも取組が進められていることを知った。志多らによる指導は費

用を要するが、公民館事業等により、年間を通じた伝統芸能の継承につながっている。美濃源氏大太鼓保存会では、演奏技術だけでなく、礼儀や挨拶から指導しているという。太鼓をたたく楽しさに加え、礼儀作法や挨拶を身に付ける視点も、今後の事業に取り入れていただきたい。

大湫町コミュニティ推進協議会（以下「大湫」）

〇委員

町民による法面足場作業を実施したとあるが、万が一の場合に備えて保険に加入する必要があるのではないか。

●大湫

市で加入しているボランティア保険が適用されると考えている。

〇委員

大湫町には県外、海外から観光やツアーで多くの方が訪れる。この特徴を活かしながら、より良い町にしていただきたい。

＜市長コメント＞

大湫町は例年、地域の課題解消に交付金を活用していただいている。区長会や地元の予算を活用することで、夏祭りやパターゴルフ大会など、夢づくり地域交付金事業以外にも様々な取り組みをされている。今年度はバスの待合所の設置を予定しており、地域に必要な事業を選定していただいている。

陶町明日に向って街づくり推進協議会（以下「陶」）

〇委員　交流人口拡大事業

交流人口の拡大について、目に見える実績はあるか。

●陶

陶与左衛門窯焼成は特に外部からの参加が多く、海外からの反応もあるため、陶町民の誇りにもなっている。さらにアピールの仕方を工夫し、口コミで応援団を増やしていきたい。

〇委員　交流人口拡大事業

事業成果について、評価調書との整合性を図っていただきたい。

＜市長コメント＞

陶町観光マップの作成に関して、町内の情報をよく調べ、まとめていただいた。今後も有効に活用していただきたい。また、小里川ダムは貴重な観光資源であるため、小里川ダム地域活性化協議会とも連携していただき、活用をお願いしたい。陶町は陶器の町でも知られている。最近ではメーカーが見学会やワークショップを行っている事例もあり、そういったメーカーとのコラボも検討してはどうか。

明世地区まちづくり推進協議会（以下「明世」）

〇委員　あきよウォッチング事業

町民ウォーキングにおいて、参加者記念品が 155,000 円計上されているが、具体的にはどのようなものを配布したのか。備考欄を活用し、詳細が分かるように記載していただきたい。

●明世

レトルトの防災食やマップなどを配布した。

〇委員　青少年育成事業

休耕田の活用について、「失敗から学んだ教訓があった」と記載されているが、具体的にはどのようなことか。

●明世

種を蒔く時期や種、肥料の選定等である。雑草の管理は地元の有志で月に１回ほど行ったが、特定の住民に頼ることが多く、地域全体を巻き込むことができなかった。地域計画に基づき、メディアに取り上げられるほど素敵な農村を目指していたが、そのためには情報発信のタイミングも重要であると感じた。

〇委員

当初の収支計画から変更になった箇所はないか。

●明世

１０％以上の流用をした事業については、変更申請を行っている。

＜市長コメント＞

青少年育成事業では、地域の子どもを巻き込んで事業を進めることができている。高校生と協働で行っているひまわり畑については、マスコミにも取り上げていただき、広く周知することができたのではないか。自然相手で上手くいかないこともあると思うが、反省を糧に頑張っていただきたい。また、今年度の明世ホタルＮＩＧＨＴは多くの来場者で賑わい、大盛況であった。今後も継続して取り組んでいただきたい。

瑞浪地区まちづくり推進協議会（以下「瑞浪」）

〇委員　地域内の交流が活発なまちづくり事業

活動スケジュール、活動内容の資料について、寺子屋チラシの印刷費と寺子屋片付け時のお茶代の金額が異なっていると思われる

●瑞浪

訂正し、お詫びする。

〇委員　広報事業

まちづくり新聞等を活用して広報活動をされているが、リアルタイムで情報発信することは難しい。防災無線や防災ラジオの活用を検討されてはどうか。

●瑞浪

防災無線の使用は難しいと説明を受けている。コミュニティーセンターがある地区では、活用の事例もあるとのことだが、瑞浪地区では難しいと思われる。

○委員

審査資料の写真が充実しているため、活動の様子がわかりやすい。

＜市長コメント＞

体験農業やホタル事業など、周辺地区での事業が多かったが、今回は駅前のMビルを活用し、寺子屋事業を行っていただいた。Mビルは「多世代が交流できる空間」を瑞浪駅周辺に作れるかどうかの社会実験の場となっている。また、ホタル事業やウォッチング事業など、幅広い事業を行っていただいており、引き続きお願いしたい。

明日の稲津を築くまちづくり推進協議会（以下「稲津」）

○委員　文化・芸術・スポーツ推進事業

事業に参加している年代の特徴はあるか。

●稲津

以前は上の年代の女性の参加が多かったが、今回の事業では男性の参加が増えた。アンケートで意見を聞きながら、今後の事業を計画していきたい。

＜市長コメント＞

明日の稲津を築くまちづくり推進協議会が NPO 法人となってから 20 年弱経過しており、町内の加盟団体と協力しながら、組織化を進めていただいている。

【５　閉会】

≪みずなみ未来部長より閉会のことば≫

以上